平成16年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ウルメイワシ

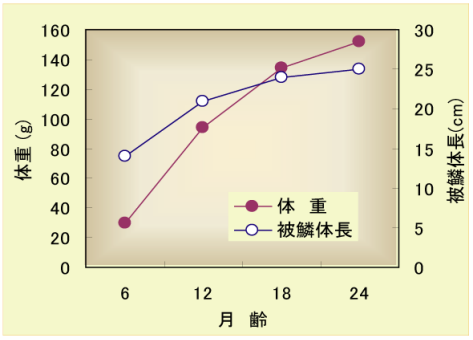
学名　*Etrumeus teres*

系群名　太平洋系群

担当水研 中央水産研究所

生物学的特性

寿命:　2歳前後
成熟開始年齢:　9カ月(一部)、12カ月（100%）
産卵期・産卵場:　産卵期は8、9月を除くほぼ周年で、盛期は2～7月と11～12月の年が多い、沿岸域
索餌期・索餌場:　周年、沿岸
食性:　動物プランクトン等
捕食者:　中大型浮魚等

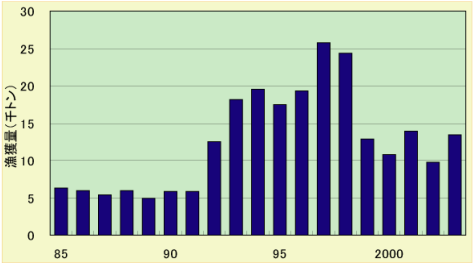


漁業の特徴

主にまき網、定置網により漁獲する。和歌山県では棒受網、また、高知県では多鈎釣りでも漁獲する。シラス期は船びき網で漁獲する。外国船による漁獲はない。

漁獲の動向

太平洋南区の漁獲量は1991年までは低水準であったが、1992年に急増し、1993～1998年は15千～23千トンと高水準であった。1999年以降は10千～14千トンで推移している。外国船による漁獲はない。

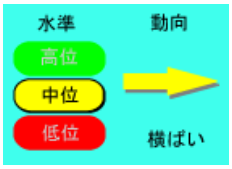


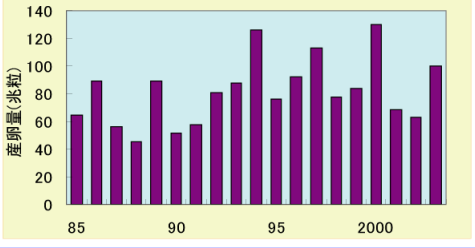
資源評価法

各県水産試験研究機関と水産研究所による改良型ノルパックネットの鉛直曳採集結果に基づき、採集点毎の卵分布密度を求め、海域面積で引き延ばして月毎の産卵量を計算した。2001年はかなり減少し、2002年はわずかに減少した。2003年は増加した。

資源状態

産卵量は、1994～2003年において3年ごとに多い年がある。2001年、2002年と減少したが2003年は増加した。産卵量と漁獲量の動向はおおよそ一致している。ただし、1999年は産卵量がやや増加したが漁獲量はほぼ半減し、2000年は産卵量が増加したが漁獲量はやや減少した。このような不一致が見られることがあるのは、釣り漁業主体で漁獲量が少ない土佐湾附近に親魚が最も多く分布しており、この海域における資源量の増減が漁獲の増減に直結しないためであると考えられる。





管理方策

最近3年間(2001～2003年)の中位の資源水準を維持することを管理目標とする。利用可能な情報は漁獲量と産卵量であるので、管理指標値を漁獲量とした。生物学的許容漁獲量の上限値(ABClimit)は、2001～2003年の平均漁獲量(=12,418トン)×0.9(資源量の指標などから判断する係数)、生物学的許容漁獲量の目標値(ABCtarget)は、ABClimit×0.8(安全率)とした。

2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合

ABClimit	11千トン	0.9Cave3-yr	-	-
ABCtarget	9千トン	0.8ABClimit	-	-

資源量は1月の値

資源評価のまとめ

- 資源量を直接計算しておらず、産卵量を指標とした
- 漁獲量、産卵量は比較的安定している

管理方策のまとめ

- 最近3年間(2001～2003年)の中位の資源水準を維持することを管理目標とする
- 2001～2003年の平均漁獲量×0.9を生物学的許容漁獲量の上限値とする
- 上限値の0.8倍を目標値とする

資源評価は毎年更新されます。